

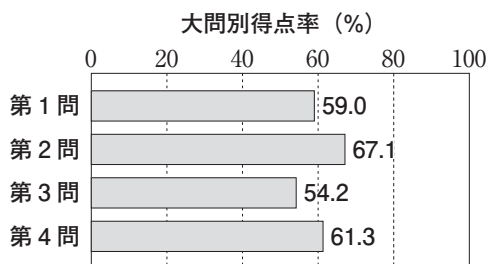
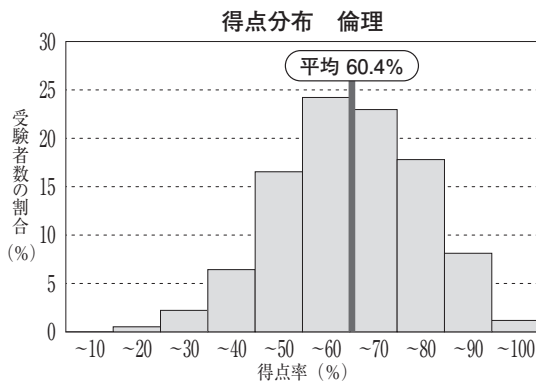
倫 理

スパートをかけ、準備万端整えて、自信をもって試験会場に向かおう。

I. 全体講評

今回の「最終12月センター試験本番レベル模試 倫理」の平均点は、60.4点であった。今回の平均点が2月に実施した第1回の平均点と比べて約20点上昇しているということは、受験者の皆さんの努力がある程度は表れていると言えよう。

しかし、合格を完璧にその手につかむためには、最後のもう一伸び、二伸びがほしい。センター試験本番での倫理の受験後、自己採点してみたら結果は60点でした、では合格を確信できないだろう。そのために、知識が不足していた、理解が不正確だった、文の読み違いなどのケアレスミスをしてしまった、などという言い訳は今回の模試で終わりにしよう。センター試験本番ではこのような理由で得点を絶対に落とさないために、十分に反省・復習してほしい。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

基本的な事項は、必ず記憶すること。

第1問の得点率は59.0%。難しい用語が並ぶ問1 [1] やルソーの「第二の誕生」について出題した問2 [2]、内容読解問題の問10 [10]の正答率は高かったが、心理学と現代思想の複合問題である問3 [3]や現代思想に関して出題した問9 [9]の正答率は低めであった。特に問3 [3]の正答率が低めだったのは残念であった。アの説明をエリクソンだと思った受験者は猛省すること。エリクソンの主張は青年期分野で必ず記憶すべき事項である。イはよく分からない文章だと思っても、消去法でオルポートを外したい。ウも「個人的無意識」と「集合的無意識」という用語でユングと特定しなければならない。

問9 [9]は選択肢に出された思想家のほとんどが一部の教科書でしか扱われていないので、自信をもって④を選択した受験者は倫理という科目全体の理解が進んでいるのであろう。その調子で本番まで努力を続けてほしい。一方で、③を選択した受験者は反省すべきである。レイチェル・カーソンはどの教科書でも登場する学者である。必ず、どのような主張をしていたか確認しておくこと。

第2問 源流思想分野

理解や知識の定着は進んでいる。その調子で学習を進めていこう。

第2問の得点率は67.1%。正答率は高めの問題が多く、源流思想分野の理解や知識の定着が一定程度まで進んでいることがうかがえる。しかし、王陽明の思想についての問2 [12]はやや正答率が低く、アウグスティヌスについての問5 [15]は苦戦したようで正答率は20%未満であった。

問2 [12]は予想通り、朱子学の説明である①を選択した受験者が3割程度存在した。「性即理」と「心即理」という言葉は朱子学と陽明学の違いを明確に表しているのだから、しっかり意味を確認し、両者

を迷いなく区別できるようにしておこう。問5 [15] は、多くの受験者が自信をもって答えられなかったようで、選択が分散した。この問題は、記述の細かい箇所を見逃してはならず、しかも詳細な知識も必要な難問である。しかし、アは「律法を厳密に守れば」、ウは「人間には神への信仰に関わる自由があり」という記述を見て不審に思える水準にまで到達したい。それくらいになればイが正文であると判断できるだろう。教科書を一読して満足するのではなく、用語集も熟読しておくこと。

第3問 日本思想分野

理解・知識を深め、同時に、選択肢の文章は全文をしっかりと読むこと。

第3問の得点率は54.2%。本文読解問題以外で正答率が70%を超えた問題は2問しかなく、全体的に低調であった。そのなかでも、奈良・平安時代の仏教についての出題である問1 [20]と、江戸時代の思想家についての出題である問5 [24]の正答率が20%台と、特に目立っている。

問1 [20]は、約半数の受験者が③を選択した。正答の④との違いはウを正文としていることだけであるから、約半数の受験者はアとイは正しく判断できたが、ウの記述を正文だと思ってしまったということになる。ウの大きな判断ポイントは「南無阿弥陀仏」にある。教科書で「南無阿弥陀仏」が出てきたのは最澄や空海の時代であっただろうか。浄土教または法然の記述のあたりで出てきているはずだ。各時代の仏教の特色をつかんでおくことでこのような間違いは防ぎやすくなる。また、ウの最後の「大仏造立」を見て正文だと即断した受験者も多いと思われるが、**選択肢の全文をしっかりと読んだうえで、自分の理解・知識と照合して正誤を判断することが重要である。**問5 [24]は、誤答の②を選択した受験者の割合が正答の①を選択した割合を上回っている。②は誤文の作り方が細かく、しかももっともらしく書かれているので混乱した受験者も多かっただろう。これを機会として、二宮尊徳の用語を確認し、さらに他の選択肢に出ている思想家についても自分の知識や理解があやふやでないか確かめておこう。

第4問 西洋近現代思想分野

西洋近現代思想は最大・最後の山場。知識を最後まで積み重ねよう。

第4問の得点率は61.3%。際立って正答率の低い問題はないが、際立って正答率の高い問題もない。この分野はまだ学習が完成していない受験者が多いのかもしれないが、知識量が要求される分野であるから、知識を最後まで積み重ねよう。

第4問で比較的多くの受験者が悩んだのは、ロールズの思想についての問8 [36]であったようだ。ロールズは近年のセンター本試験では頻出で、2015年では第1問の問5 [5]、2017年度では第4問の問5 [33]で出題されている。ロールズの正義の原理と原初状態について、確実に理解しておくこと。また、イの文章はセンについての説明である。センも教科書では欠かさずに取り上げられているので、本試験でも出題される可能性がある。ぜひセンの主張も確認してほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆何をすべきか、優先順位を見極めよう。

センター試験本番まで残りわずかであるが、この時期は大一番を控えて最も集中力が高まっている時期でもある。これまでできなかったことも、今ならでき。大切なのは、明確で具体的な目標を立てることである。模試の結果を冷静に受け止めて、何をすべきか、その優先順位を定めよう。全力でラストスパートをかけた受験生が本番で驚くほど素晴らしい結果を出す例は、枚挙にいとまがない。まだまだ伸びると信じて頑張してほしい。

◆センター試験本番に向けて。

試験開始直後は、気をはやるのを抑えて、まず問題数の変更の有無など、前年度からの大きな変更点がないかを確認しよう。これはとても重要な作業である。同じならば安心して解き始め、変わっていた場合はそれを心に留めておく。それだけで、時間がなくなったところで変更気づき、パニックに陥るということを防げる。ケアレスミスは、心が動揺している時に生じやすい。まずは落ち着いて倫理の問題全体を見てほしい。健闘を祈る。